

こんな経験はありませんか。代りに映えのしない卵やリンゴを手に取り、それを買うか否かしげしげと見定めたり、朝採りの胡瓜と昨日のものとの明らかな違いを一目で見極めてしまうことを。

私たちの普段の生活の中で、物事を判断する感覚の力を測ることは難しいのですが、意外に鋭く正確なものです。この直感ともいえる「ものを捉える力」、「感じる力」とは、五感、即ち視覚、聴覚、臭覚、味覚、触感です。いつも見慣れているものも五感を持つ

## 彫刻 勝野 眞言さん

# 五感が表現を磨く

て大切によく見れば、新たな発見がありわくわくした気持ちになれるのです。

私たちは元々さまざまな事象に心を動かし、それを伝えたいという欲求をもったクリエイティブな存在なのです。周りに流されることなく、自分としっかり向かい合い、自らの五感を持って挑戦や失敗をたくさん経験し、これを繰り返しながら自分なりの表現を磨いていってほしいと思います。



月と山 2018年、樹脂(着色)、  
400×1500×1200ミ、白目会展

かつの・まこと 54年長野県南木曾町生まれ。78年武蔵野美術大大学院修了。83年日彫展奨励賞。以後、同展の日彫賞、西望賞、会員賞、日展の特選、会員賞、改組新日展の文科大臣賞など受賞。06年から崇城大芸術学部教授、20年2月から同学部長。熊本市。

